

- a 消化障害トシテ嘔吐及腹痛下痢等ヲ起シ
- b 神経障害トシテ精神朦朧、眩暈、記憶減退、多發性神経炎等ヲ來シ
- c 尿ノ變化ヲ起スコトアリ、殊ニ特異ナルハ尿ノ變化ニシテ「ヘマトポルフィリン」ノ出現ニ由リ尿ハ暗赤色ヲ呈ス

d 排泄スルニ當リ腎臟ヲ刺戟シ腎臟炎ヲ起シ、細尿管ノ上皮細胞ヲ壞死セシメ、尿量減少シテ強酸性トナリ蛋白ヲ混ズルニ至ル

△ 醫治應用

- 1 熟睡不能ノ患者ニ與ヘテ安眠セシム 一〇ヲ細小トナシ多量ノ溫湯ヲ以テ頓服セシム
  - 2 疼痛及呼吸困難ニ因スル不眠症ニモ用フ
- 但本品ハ蓄積作用ヲ起シ易キガ故ニ使用一週間以上ニ亘ルベカラズ

△ 用量 一回 〇・五—一・〇 極量 一回…一・〇 一日…二・〇

◎「メナル・スルホナール」(劑) *Methylsulfonal* (CH<sub>3</sub>(C<sub>2</sub>H<sub>5</sub>)<sub>2</sub>CSO<sub>2</sub>C<sub>2</sub>H<sub>5</sub>)  
「トリオナール」 *Trional*  
トモニツ

無色光輝アル葉狀ノ結晶ニシテ臭氣ナク、七六度ニ於テ熔融シ、三二〇分ノ水並ニ約二五分ノ熱湯ニ溶解シ、中性ノ反應ヲ徵シ、「アルコール」並ニ「エーテル」ニ容易ニ溶解ス

作用 吸收分解排泄共ニ「スルホナール」ニ比シテ迅速ナリ、從テ奏效早ク且危險少シ、動物試験ニ徵スルモ「ヘマトポルフィリン」尿ヲ來スコト稀ナリ

應用 催眠劑トシテ頗ル賞用ス、用法「スルホナール」ニ同ジ

極量 一回…一・〇 一日…二・〇

四 「ブロムラール」類

「ブロムラール」類 *Bromural-Group*

「ブロム」ヲ含有スル尿素誘導體ニシテ之ヲ持重スレバ其「ブロム」ハ腦ニ蓄積シテ鎮靜作用ヲ致シ以テ催眠作用ヲ

補助スル性質ヲ有ス、之ニ屬スルモノ「ブロムラール」、「アダリン」、「ノイロナール」等アリ

(一) ◎「ブロム・ワレリル尿素(劑) *Brom-Valerylurea* CH<sub>3</sub>BrCO-NHCO-NH<sub>2</sub> 「ブロムラール」 *Bromural* 「カルモチン」 *Calmoctin* 「プロバリン」 *Brovadin* 「ソムナール」 *Somnal* 等ノ名アリ

性状 白色結晶性ノ粉末ニシテ味ハ微ニ苦ク一四七—一四九度ニ於テ熔融シ「アルコール」並ニ「エーテル」ニ容易ニ溶解シ、水ニ僅ニ沸湯ニ分解シテ溶解ス

應用 催眠劑トシテ頗ル用フルニ足ル 〇・三—〇・六ヲ内服スレバ五—二〇分ニシテ睡眠ヲ催シ、三—四時間持續ス、副作用殆ンドナシ

(二)「ブロム・チエチル・アセチル尿素」(劇) Bromdiethylacetylurea  $C_6H_5Br \cdot O \cdot NHCONH_2$  (「ソダリン」  
Adalin 「ドミン」 Dormin) 白色ノ結晶性粉末ニシテ殆ド臭味ナク、水ニ溶解シ難シ

應用 催眠、鎮靜作用アリ、極メテ安全無害ニシテ稱用スベキモノナリ

鎮靜劑トシテ〇・二五—〇・五ヲ一日三—四回内服セシメ、又催眠劑トシテ〇・七五—一・〇ヲ用ユ

(三)「ノイロナール」 Neuronal  $C_6H_5Br \cdot NO$ 「ブロム・エチル・アセタミド」ナリ

白色結晶性粉末ニシテ味清涼刺戟性アリテ苦味ヲ帶ブ、一一五分ノ水ニ溶解ス

應用 催眠劑トシテ用フ 本劑ノ長所ハ a 作用迅速ナルコト b 副作用ナキコト

c 四一%ノ「ブロム」ヲ含有スルヲ以テ鎮靜作用ヲ有スルコトナリ、故ニ癲癇ニ用フ

用量 催眠劑トシテハ〇・五—二・〇 鎮靜劑トシテハ〇・五—三・〇

### 五 「バルビツール 酸化化合物

「バルビツール 酸化化合物 Barbituric Acid Compound  
Barbitursäure-Verbindung

尿素誘導體ノ一種ニシテ催眠作用強ク且持  
續スルモ、毒性大ナラズ、呼吸器及心臟等

ニ不良作用ヲ及ボスコト少ナシ

之ニ屬スルモノ「ペロナール」、「ルミナール」、「チアール」等ヲ主要トナス

(一)「バルビタール」(劇) Barbitol  $(C_5H_5)CH_2NO_2$  (「チエチル・バルビツール 酸」 Diethylbarbituric Acid 「バ  
ロナール」 Veronal トモイフ

性。 無色小葉狀ノ結晶或ハ白色結晶性ノ粉末ニシテ臭氣ナク微ニ苦味ヲ有シ、一九〇—一九一  
度ニ於テ熔融シ、一七〇分ノ水並ニ一七分ノ熱湯ニ溶解シ酸性ノ反應ヲ徴ス、「アルコール」並ニ「ナ  
トロン 滴液」ニ容易ニ、又「エーテル」ニ溶解シ、「クロロホルム」ニ溶解シ難シ

極量 一回：〇・五 一日：一・〇

作用。 a 局處刺戟作用ヲ有セザルガ故ニ胃腸ヲ害スルコトナク b 催眠作用強力ニシテ抱

水クロラール」ニ二倍シ、且多少ノ鎮痛作用ヲ有シ、多クハ使用後三〇分—一時間ニシテ數時間ニ  
亘ル安眠ヲ來ス c 心臟及呼吸等ヲ障害セザルノ長所アリ

然レドモ a 排泄緩慢ニシテ其作用翌日ニ殘ルコトアリ、眩暈、惡心、嘔吐、皮疹等ヲ見ルコ

トアリ b 大量ヲ用ユレバ昏睡、心臟衰弱、反射亢進、痙攣等ノ發スルコトアリ c 連用  
スレバ蓄積作用ヲ起ス、精神朦朧、歩行蹣跚、身神衰弱、癲癇様發作、貧血、「ボルフィリン」尿等  
ヲ見ルコトアリ

應用。 神經過敏性不眠症、急性傳染病ニ伴ヘル不眠症、神經衰弱、神經恐怖症、興奮狀態、癲癇  
等ニ用ヒラル

○三二〇・五ヲ熱湯ニ溶解シテ用ユレバ吸收並ニ排泄共ニ迅速ナルベシ  
交代性麻醉法ニ於テ全身麻醉ヲ行フニ方リ手術前一時間半ニ本品一・〇ヲ溫湯ニ溶解シテ内服セ  
シムレバ吸入麻醉劑ノ量ヲ節約スルヲ得

(一)「フェノバルビタール」(劇)  $(C_9H_5)(C_6H_5)C_4H_5NO_2$  「ルミナール」 *Luminal* トモ云フ「フェニル・エチル  
・バルビツール」酸 *Phenylbarbituric Acid* ナリ  
*Acidum phenylacetylarbituricum*

性状 白色結晶性ノ粉末ニシテ微ニ苦味ヲ有シ、水ニ溶解シ難ク、四〇分ノ熱湯、約一〇分ノ「ア  
ルコール」又約一五分ノ「エーテル」ニ溶解シ、一七三—一七四度ニ於テ熔融ス

極量 一回：〇・三五 一日：〇・五〇

應用 催眠作用大ナルヲ以テ神經性不眠症、疼痛ニヨル不眠症、精神病者、興奮状態、酒客譫妄、  
「モルヒネ」中毒等ニ用ヒラレ、又運動鎮靜作用大ナリトシテ舞踏病、癲癇、震顫麻痺等ニ用ヒラル  
(三)「チアール」 *Dial* (チアール・バルビツール酸 *Dialybarbituric Acid* *Acidum dialybarbituricum*) 白色ノ光澤アル小葉狀結晶ニシ  
テ無臭、微ニ苦味ヲ有シ、一七〇—一七一度ニ於テ熔融ス、冷水ニ僅ニ、溫湯ニ多量ニ溶解ス、「ア  
ルコール」並ニ「エーテル」ニ容易ニ溶解ス

強キ催眠作用ヲ有シ又鎮靜作用ヲ有ス、少量ニシテ迅速ニ奏效シ、心臟及胃腸ヲ障害セズ、醒覺  
後不快感ヲ遺サザルヲ特徴トス、稀ニ痙攣ヲ見ルコトアリ 應用左ノ如シ

催眠劑トシテ神經性不眠症、「アルコール」中毒、「モルヒネ」中毒等ニ〇・一—〇・二ヲ用ヒ  
鎮靜劑トシテハ〇・一—〇・一五ヲ一日二回ニ分服セシム

### 六 「ウレタン」類

「ウレタン」類 *Urethan Group*  
*Urethan-Gruppe*

「アミノ簇  $NH_2$ 」ヲ含有スルヲ特徴トス、造鹽素ヲ含有スル他ノ諸  
類ノ如ク呼吸器及血行器ヲ障害セザレドモ、效果微力ナリ

「ウレタン」 *Urethan*  $C_2H_4NO_2$

ハ尿素誘導體ノ催眠劑ニシテ、「カルブアミン酸」ノ「エチル・エス  
テル」ナリ、無色結晶性塊ニシテ冷鹹味ヲ有シ一分ノ水、〇・六

分ノ「アルコール」ニ溶解シ、「エーテル」ニモ亦溶解ス

作用 催眠作用アリ、本劑ノ長所ハ a 「アミド」簇ヲ含有スルヲ以テ呼吸ヲ旺盛ニシ b

造鹽素ヲ含マザルヲ以テ血行障害ヲ起スコトナク c 臭味共ニ無ク水ニ溶ケ易シ、故ニ作用シ

易ク d 消化器ヲ刺戟セズ

然レドモ亦次ノ短所アリ a 作用微弱ニシテ少シク重症ノモノニハ其效ヲ奏セズ b 副作

用トシテ尿量增多、及惡心等ヲ起ス

應用 呼吸淺表ニシテ換氣不足ヲ伴フ處ノ不眠症ニ用フ 用量 一・〇—二・〇

## 第十六章 興奮劑

## 興奮劑

Cerebral Stimulants  
Analeptics

興奮劑トハ諸種ノ中樞神経系ニ作用シ其機能ヲ亢進セシムルモノヲ云フ、又腦興奮劑トモ云フ

△ 作用 興奮劑ハ左ノ一乃至數作用ニヨリテ奏效スルモノトス

(1) 大脳皮質ノ興奮ニヨリテ以テ精神ヲ發揚セシム 「キサナンチン」誘導體、殊ニ「カフェイン」ノ作用ノ如キ之レニ屬ス、「カンフル」亦然リ

○ (2) 中樞神経系ノ反射興奮性ノ亢進 「ストロキニーネ」、皮膚刺戟劑(「アムモニア」類)等ノ作用之レニ屬ス

(3) 腦血行ノ増進 腦ノ血行ヲ佳良ナラシムレバ其如何ナル方法ニヨルヲ問ハズ、興奮作用ヲ現ハスベシ、左ノ如キモノ之レニ屬ス

a 強心劑ハ心臟機能ヲ旺盛ナラシメテ以テ腦血行ヲ佳良ナラシム、「カフェイン」、「カンフル」等之レニ屬ス

b 血管收縮劑ハ血壓ヲ上昇シテ以テ腦ノ血行ヲ佳良ナラシメ興奮ノ效ヲ奏ス

c 血管運動中樞ヲ麻痺セシムルモノハ收縮セル腦血管ヲ擴大シ以テ興奮作用ヲ營ム、「アルコール

ル」劑、亞硝酸アミル」等之レニ屬ス

△ 醫治應用 興奮劑ハ左ノ如キ場合ニ應用セララル

1 腦ノ機能障害 例之諸種ノ原因ニヨル腦貧血、麻酔劑中毒等

2 衰弱狀態 諸種ノ重症疾患又ハ慢性疾患ニ併發又ハ續發スル處ノ全身衰弱狀態

3 虚脱 高熱、出血、中毒等ノタメニ急劇ニ中樞神経系及心臟等ノ機能が著シク沈衰シタル時

4 腦震盪

△ 種類及名稱 興奮劑ノ主要ナルモノ左ノ如シ

1 直接ニ腦ヲ興奮スルモノ 「カフェイン」、「カンフル」等

2 反射興奮性ヲ亢進スルモノ 「ストロキニーネ」、諸多ノ皮膚刺戟劑等

3 腦ノ血行ヲ増進スルモノ 「アルコール」劑、亞硝酸アミル」等

## 一 「カフェイン」

① 「カフェイン」(刺) Caffeine  $C_8H_{10}N_4O_2 + H_2O$  (「テイン」 Thein)  
(Coffeinum) (Therin)

絹絲様ノ光澤アル白色柔靱ノ針狀結晶ニシテ味微ニ苦ク、八〇

分ノ水ニ無色ニ溶解シ中性ノ反應ヲ徴ス、二分ノ熱湯ニ溶解シ、冷後凝結シテ結晶性ノ糜粥トナル、

又九分ノ「クロロホルム」並ニ五〇分ノ「アルコール」ニ溶解シ、「エーテル」ニ僅ニ溶解ス

△ 作用 中樞神経系、心臓、横紋筋、及腎臓ヲ刺戟興奮セシム

(1) 中樞神経系 ニ對スル作用左ノ如シ

a 少量(〇・一—〇・五)ヲ用ユレバ左ノ如キ作用ヲ現ハス

先ヅ大脳ノ機能ヲ亢進シ、疲勞及睡眠ノ感覺ヲ減少シ、思考力鋭敏トナル

次デ延髓ノ血管運動中樞ヲ刺戟シ、殊ニ内臟神經配下ノ血管ヲ收縮セシム、之ニ反シテ腎臓、心

臓、皮膚、腦等ノ血管ハ擴張シ爲メニ全身血液ノ循環ヲ佳良ナラシム

又呼吸中樞ヲ刺戟シ、呼吸頻數且深大トナル

b 大量(〇・五—一・〇)ヲ用ユレバ精神發揚シテ不穩状態トナリ、耳鳴、譫語、震顫、搐搦ヲ起シ、

心悸亢進、脈搏速實且不整トナル

(2) 心臓ノ筋質ヲ興奮シ、收縮力ヲ増加シ、心力ヲ旺盛ナラシム

(3) 横紋筋ヲ興奮シテ疲勞スルコト少ク、且絶對的力量ヲ増加セシム、但用量大ナル時ハ一旦收

縮シタル筋肉ノ弛緩スル迄ニ長キ時間ヲ要ス、用量更ニ著大ナル時ハ永ク硬變ニ陥ル

(4) 腎臓興奮 「カフェイン」ノ適當量ヲ與フル時ハ腎臓細尿管ノ上皮細胞ノ分泌機能ヲ興奮シ著

シキ利尿作用ヲ現ハスベシ

(5) 排泄及變化 本品ノ体内ニ吸收セラレタル後ノ運命左ノ如シ

a 尿中ニ排泄セラル、即一部分ハ原形ノ儘排出シ、一部分ハ變化シテ、二「メチル・キサント

ン」、「メチル・キサントニン」、「キサントニン」等トナリテ排泄セラル

b 大部分ハ分解シテ尿素等トナリテ消滅ス

△ 醫治應用

1 興奮劑 トシテ疲勞、衰弱状態、並ニ麻醉劑中毒等ニ用フ

2 強心劑 トシテ心臓病殊ニ心瓣膜病ニテ代償障害ヲ起セルモノニ用フ

3 利尿劑 トシテ腎臓病及心臓病ニテ水腫アルモノニ用フ

4 鎮靜劑 トシテ頭痛殊ニ偏頭痛ニ用フルコトアリ

△ 用量 一回 〇・三—〇・五 極量 一回…〇・五 一日…一・五

二 硝酸ストリキニーネ

◎ 硝酸

ストリキニーネ Strychnin Nitrate  $C_{21}H_{22}N_2O_8HNO_3$

「ストリキニーネ」ハ「ストリキニウム」ノ屬殊ニ蕃木龍中ニ含

有セラルル「アルカロイド」ナリ、遊離状態ノモノハ水ニ溶解シ難キガ故ニ通常硝酸鹽ヲ用フ

△ 性状 無色ノ針狀結晶ニシテ味苦ク、九〇分ノ水ニ溶解シ中性ノ反應ヲ徵ス、三分ノ熱湯並ニ三〇分ノ熱「アルコール」ニ溶解シ、「エーテル」、「クロロホルム」又「二硫化炭素」ニ殆ト溶解セズ

△ 作用 中樞神経系ニ對シテ興奮作用ヲ營ム

(1) 中樞神経系ノ反射興奮性ヲ亢進セシム、故ニ動物ニ於テハ五器官ノ微弱ナル刺激ニ由テ反射的ニ全身ノ筋肉一時ニ收縮ス、強直性痙攣即之レナリ

(2) 腦及延髓ノ中樞ヲ興奮セシム、即左ノ如シ

a 血管運動中樞ヲ興奮シ、血壓ヲ上昇セシム

b 呼吸中樞ヲ興奮シ、呼吸運動ヲ強盛ナラシム

c 迷走神経ノ心臟制止中樞ヲ刺激シ心動ヲ緩慢ナラシム

(3) 五器官ノ感受性ヲ増進セシム

a 腦ニ於ケル視覺中樞ヲ刺激興奮シ、又直接網膜ヲ刺激シテ視力ヲ強カラシム

b 嗅覺ヲ鋭敏ナラシム、又多少其性質ヲ變シ惡臭ヲ佳香ト感ズルコトアリ

c 味覺、聽覺、觸覺等何レモ鋭敏トナル

(4) 蓄積作用 「ストリキニーネ」ハ之ヲ連用スル時ハ蓄積作用ヲ起シ、大量ヲ一時ニ用ヒタルト同一ノ症狀ヲ呈ス、之レ恐ラクハ「ストリキニーネ」ノ神経系ニ對スル親和力強ク、一旦結合スル時

ハ容易ニ解離セズシテ漸次蓄積スルニ由ルモノナラン、其證トシテ一回「ストリキニーネ」ヲ與フル時ハ一週後ニ至ルモ尙之ヲ尿中ニ證明スルコトヲ得

(5) 中毒 本品〇・〇〇五—〇・〇一以上ヲ皮下ニ注射スル時ハ中毒ヲ起ス、中毒症狀左ノ如ク

a 強硬期 即中毒ノ前驅症ニシテ項筋及下顎筋ノ強硬ノ感、牙關緊急、四肢震顫ヲ起シ、五器官ノ感受性亢進シ甚シキ苦悶ノ感覺ヲ起ス

b 痙攣期 全身強直シ、呼吸困難トナリ、顔面「チアノーゼ」ヲ起ス、然レドモ精神ハ尙少シモ侵サレズ、故ニ苦痛甚シ

c 麻痺期 全身衰弱、中樞神経系麻痺ノ爲メニ一般虛脱ニ陥リテ終ニ斃ル

△ 醫治應用

1 興奮劑 トシテ一般虛脱ニ用フ、殊ニ抱水クロラール」ノ如キ血管ノ弛緩セルモノノ中毒ニ〇・〇〇一—〇・〇〇五ヲ皮下ニ注射ス

2 運動麻痺 殊ニ顔面神経麻痺ニ用ヒラル

△ 用量 〇・〇〇一—〇・〇〇五 極量 一回…〇・〇〇五 一日…〇・〇〇一

### 三 「アルコール」劑

「アルコール」劑 Alcoholic PreparationsAlkohol-präparate

「アルコール」劑中ニ於テ興奮劑トシテ使用セララルモノハ唯「アルコール」飲料アルノミ、其作用ハ主トシテ有效成分タル「アルコール」ニ歸ス

元來「アルコール」ハ一般ニ脂肪化合物ノ麻醉劑ニ屬スベキモノナレドモ、吸入麻醉ノ初期ニ現ハラル興奮状態著明ナルヲ以テ臨牀上主トシテ興奮劑トシテ使用セラル

## △ 一般作用

(1) 局所作用 刺戟、腐蝕、防腐作用ヲ有ス

a 稀薄ナルモノハ揮發性ナルヲ以テ局處組織内ニ竄入シ、異物トシテノ刺戟ヲ與フ、故ニ局處ニハ溫暖灼熱ノ感ヲ起シ甚シキハ炎症ヲ起ス

b 濃厚ナルモノハ蛋白質ヲ沈澱シ、且脱水作用アルニヨリテ腐蝕作用ヲ營ム、七〇%以上ノモノハ殆ド常ニ粘膜炎ヲ腐蝕ス

c 防腐作用ヲ有ス、其效力頗ル強シ

一〇%溶液ハ細菌ノ發育ヲ防遏シ

五〇—七〇%溶液ハ最強ク殺菌ス、然レドモ芽胞ニ對シテハ無効ナリ

(2) 吸收作用

a 適量ノ「アルコール」又ハ「アルコール」飲料ヲ内服セシムレバ興奮作用ヲ現ハス 即精神興奮シテ言語動作活潑トナリ、呼吸運動旺盛トナリ、脈搏ハ大且頻數トナリ、顔面潮紅シ生色ヲ増ス

此現象ハ是等ノ機能ノ衰ヘタルモノニ於テ殊ニ著シ、其原因ハ腦ニ於ケル制止中樞ノ麻痺ニヨリ各種ノ中樞ガ自由ニ働クガ故ナリ、精神機能中先ヅ侵サル、ハ注意、判斷、理解、反省等ノ能力ナリ、例ヘバ異常ナル勇氣ハ外界ノ危險ヲ顧慮セザルニ由ルモノニシテ一方注意反省ノ減退ナリ

b 大量ノ「アルコール」ヲ用フル時ハ急性中毒ヲ起ス、即酩酊状態トナリ思想錯亂、步行蹣跚、舌澀滯シ、體力漸次疲勞シテ睡眠ヲ催スニ至ル

更ニ大量ヲ與フレバ全ク知覺及意識ヲ失ヒ、隨意及反射運動消失シ、筋肉弛緩シ、皮膚蒼白トナリ、脈搏柔軟、體溫下降シ、呼吸緩徐不正トナリ遂ニ人事不省ニ陥ル

醒覺後一定時體力並ニ精神機能ノ衰弱、嘔吐、頭痛等ヲ遺スコトアリ、之ヲ宿醉状態ト云フ

c 「アルコール」飲料ヲ持長スレバ慢性中毒ヲ起ス、其主要ナルモノハ局處障害、神經障害、腎臟、肝臟、心臟、血管等ノ障害ナリ

イ 局處障害 「アルコール」ノ觸ルル部分ニハ加答兒ヲ起ス、即口腔、咽頭、食道、氣管、胃腸等ノ慢性加答兒ヲ起スガ如シ

ロ 神經障害 或ハ末梢ニ顯ハレ、或ハ中樞ニ顯ハル

末梢神經ニ起ルハ多クハ慢性炎ニシテ其症狀トシテ知覺異常、壓痛、震顫、歩行障害等ヲ來ス  
中樞神經系ニ於テハ一般神經機能障害セラレ智力減退、憂鬱、發揚等ノ狀態ヲ發ス

ハ 肝臟腎臟等ノ萎縮ヲ來シ      ニ 心臟ニ脂肪變性ヲ起シ      ホ 血管ニハ硬化症ヲ起ス

△ 醫治應用

1 強心劑 トシテ急劇ニ起レル心臟衰弱ニ用ヒラルコトアリ、其理由左ノ如シ

a 血管運動神經中樞ヲ麻痺シテ血管ヲ擴張シ腦ニ於ケル血行ヲ佳良ナラシム

b 味覺嗅覺等ノ局處刺戟ニ由リ反射的ニ心動ヲ亢進ス

c 血管擴張ノ爲ニ末梢ノ抵抗ヲ減ズ、故ニ心搏動數ヲ増加ス

d 精神變調ニ由ル運動増加及精神發揚ノ爲メ心動ヲ増加ス

e 心冠狀動脈ノ擴張ニ由リ心臟自己ノ榮養佳良トナリ心力ヲ増進ス

以上ノ合同作用ニヨリ心臟力ヲ旺盛ナラシムルモノナリ

2 強壯劑トシテ用フルコトアリ、其理左ノ如シ

a 「アルコール」ノ快意ニヨリ精神身體ノ疲勞ヲ忘レシム

b 胃ヲ輕度ニ刺戟シテ食慾ヲ亢進シ、消化液ノ分泌ヲ高メ、消化ヲ佳良ナラシメ、消化產物ノ

吸收ヲ促進ス

c 體內ニ於テ含水炭素ノ如ク燃燒シテ蛋白質ノ分解ヲ妨グ

以上ノ作用合同シテ滋養強壯ノ結果ヲ齎スモノナリ

3 興奮劑 トシテ拔牙、膿瘍切開、其他齒科手術ニ際シテ起ル處ノ腦貧血ニ内用セシム

4 消毒劑 トシテ手指及手術部並ニ器械等ノ消毒ニ用フ

5 皮膚刺戟劑 トシテ「ロイマチス」性齒痛等ニ用フ、但シ此場合ニハ他ノ刺戟劑ヲ配伍ス、例

ヘバ蟻酸二・〇、「アルコール」三五・〇、水二三・〇等ノ如シ

6 消炎劑 トシテ頬部蜂窩織炎、顔面丹毒等ニ七〇%ノ「アルコール」ヲ以テ約一晝夜「アルコ

ール」繃帶ヲナス時ハ消炎ノ效アリ、之レ一面ニ於テ防腐作用ヲ有シ、他面ニ於テ局處ニ充血ヲ來

スニヨルモノナリ

7 乾燥兼知覺鈍麻劑 トシテ齶窩等ニ貼布ス

△ 種類 左ノ如シ

① 純「アルコール」(普) Absolute Alcohol 無色澄明揮發性ノ液ニシテ中性ノ反應ヲ徵シ特異竄透性ノ

香氣ヲ有シ、味灼クガ如ク、七八—七九度ニ於テ沸騰シ、水、「エーテル」、「クロロホルム」又「ベ

ンゾール」ニ隨意ノ比例ニ於テ澄明ニ混和ス、比重〇・七九六—〇・七九七ナリ、九九・四六—九九・六

六容量%、或ハ九九・一一—九九・四四%ノ純「エチル・アルコール」ヲ含有ス



◎「アルコール」(普) Alcohol 無色澄明揮發性ノ液ニシテ中性ノ反應ヲ徴シ特異竄透性ノ香氣ヲ有シ味灼クガ如ク點火スレバ藍青色ノ焰ヲ放チ燃燒ス、比重〇・八三〇—〇・八三四ナリ、九〇・〇九—九一・二九容量%、或ハ八五・八〇—八七・三五%ノ純「エチル・アルコール」ヲ含有ス

◎稀「アルコール」(普) Dilute Alcohol 無色澄明ノ液ニシテ六〇—六一%ノ純「エチル・アルコール」ヲ含有ス、比重〇・八九三—〇・八九六

(二) 葡萄酒(普) Wine 葡萄ノ液汁ヲ醱酵セシメテ製シタル飲料ナリ

通常ノ葡萄酒ハ七・〇—一〇・〇%ノ「エチル・アルコール」ヲ含有スルモ、「セリ」Sherry 「マデイラ」Madera 「マルサラ」Marsala 「マラガ」Malaga 「ポルトワイン」Portwine ノ如キ甘味葡萄酒ハ醱酵後「アルコール」ヲ加ヘテ其含有量ヲ増加セルモノナリ、一六—二三%ノ「アルコール」ヲ含有ス、色ニヨリ赤葡萄酒ト白葡萄酒トノ二種アリ、赤酒ハ鞣酸ヲ含有ス

興奮劑ニハ香氣高キモノヲ用フ、強壯劑ニハ通常赤酒ヲ用フ

用量 一五・〇—二〇・〇

(三) 「コニアク」Cognac (普) 葡萄酒ヲ蒸餾シテ製ス

黄色澄明氣味佳快ナリ、一〇〇cc中三五—三九・〇瓦ノ純「アルコール」ヲ含有ス  
興奮劑トシテ用ユ 用量 一五・〇—二〇・〇

#### 四 亞硝酸アミル

◎亞硝酸アミル (劇) Nitrite of Amyl  $C_5H_{11}ONO$

類黄色澄明揮發性ノ液ニシテ特異ノ香氣ヲ有シ其味芳香性ニシテ灼クガ如ク、九七—

九九度ニ於テ沸騰ス、水ニ殆ド溶解セズ、「アルコール」並ニ「エーテル」ニ隨意ノ比例ニ於テ混和ス、點火スレバ光輝アル黄色ノ火焰ヲ放チ煤煙ヲ發シテ燃燒ス、比重〇・八七—〇・八八ナリ

極量 一回：〇・二 一日：〇・五

△作用 血管殊ニ腦血管ヲ擴大セシメテ興奮作用ヲ營ム

(1) 少量(二—五滴)ヲ吸入セシムレバ皮膚ノ血管ヲ擴張セシメ脈搏ヲ増加シ、顔面及頸部等ニ燃ユルガ如キ赤色ヲ呈ス、血液多量ニ表層ニ來ルガタメ溫暖ノ感アリ、頸動脈ノ搏動ヲ自覺ス、脈搏大且軟トナリ、其數ヲ増シ往々九〇至ニ達ス、此ノ如キ作用ヲ起サシムル理由ハ左ノ如シ

a 血管運動神經中樞麻痺セラルルガタメニ血管緊張ヲ失ヒテ擴張ス

b 更ニ多量ヲ用フレバ血管壁自己モ亦麻痺シ爲メニ血壓沈降ス、實驗的ニ動物ノ脊髓ヲ延髓下ニ於テ切斷スレバ血管擴張ス、之ニ本劑ヲ與フレバ更ニ血管壁開大ス

c 脈搏ノ増加スルハ迷走神經ノ麻痺スルニヨルモノトス

(2) 大量ヲ用ユレバ中毒ヲ起ス、中毒ノ始メニハ眩暈ヲ覺エ輕度ノ麻醉状態トナリ、遂ニハ血壓沈降シ、窒息性痙攣ヲ起シテ死ニ至ル

中毒ノ原因ハ本品ガ體內ニテ「アミル・アルコール」ト亞硝酸トニ分解シ、此遊離亞硝酸ノ爲メニ血球中ノ「ヘモグロビン」ヲ變ジテ「メトヘモグロビン」トナスニヨル、其レガ爲メニ動脈血ハ褐色ヲ呈スベシ、「メトヘモグロビン」ハ素ト「ヘモグロビン」ト酸素トノ抱合物ナレドモ、其結合状態酸化ヘモグロビン」ヨリモ遙ニ鞏固ナルガ故ニ其酸素ヲ組織ニ供給セズ、爲メニ組織内ニ酸素缺乏シテ所謂内窒息ノ状態トナルモノトス

△ 醫治應用 脈管痙攣ノ爲メニ生ズル處ノ諸種ノ疾患ニ用フ 腦貧血、「コカイン」中毒、拔牙時ノ「ショック」等ノ如シ、用法ハ二―五滴ヲ布片ニ浸シテ吸入セシム

◎ 甘硝石精

(普) Spirit of Nitrous Ether (亞硝酸エチル精)

無色乃至微黄色澄明揮發性ノ液ニシテ佳快

「エーテル」様ノ香氣ヲ有シ、味ハ微ニ甘ニシテ灼クガ如シ、水ニ隨意ノ比例ニ於テ澄明ニ混和シ中性或ハ弱酸性反應ヲ徴ス、主トシテ亞硝酸エチル」ノ「アルコール」溶液ニシテ其他ニ少量ノ「アセトアルデヒド」及醋酸エチル」等ヲ含有ス、比重〇・八四―〇・八五ナリ

注意  
此ハコナー「シネール」ハ「アセトアルデヒド」及「醋酸エチル」等ヲ含有ス、比  
今「シネール」ハ「アセトアルデヒド」及「醋酸エチル」等ヲ含有ス、比  
此ハコナー「シネール」ハ「アセトアルデヒド」及「醋酸エチル」等ヲ含有ス、比

用量 一日數回 一〇―三〇滴ヲ用フ

欠

# 欠

△ 用法 症状及年齢ニヨリ用法及用量ヲ定ム

a 注腸法ニハ五%溶液(等張液)ノ二〇〇・〇—一〇〇〇・〇ccヲ用ユ、点滴法ニヨレバ殆ド完全ニ吸収セラレ尿中ニ糖反應ヲ認ムルコトナシ、毎日一—二回反覆シ、十數日ニ及ブモ直腸ヲ刺戟スルコトナシ

b 皮下注入法 五%溶液ヲ一回一〇・〇—一〇〇・〇cc—一〇〇〇・〇cc注入ス、普通ノ食鹽水ノ用法ニ同ジ

c 靜脈内注射法 通例五—二五%溶液ヲ用ユ、滲透療法ノ目的ニハ特ニ一〇—二〇%高張液ヲ使用ス

### 第十八章 瀉下劑

#### 瀉下劑

Cathartics  
Kathartica

腸ノ排泄機能ヲ催起シ排便ヲ誘起スル藥物ヲ云フ、其效果ノ強弱ニヨリ左ノ三者ヲ區別スルコトアリ

- a 軟下劑 *Evacuans* 大量ヲ用ヒテ適當ノ排便ヲ來スモノ
  - b 緩下劑 *Laxatives* 中等量ヲ用ヒテ緩和ノ下痢ヲ來スモノ
  - c 峻下劑 *Drastics* 少量ニテ激烈ナル下痢ヲ來シ、水様、頻回トナリ、腹鳴疝痛ヲ伴フモノ
- 藥物學上瀉下劑ヲ左ノ二種ニ區別ス

- 1 鹽類下劑 芒硝(硫酸ソーダ)、人工「カルルス」泉鹽、硫酸マグネシア
- 2 植物性下劑 「ヒマシ油、巴豆油、「ヤラツバ根、大黃、「ロカイ」

#### 一 鹽類下劑

#### 鹽類下劑

Saline Cathartics  
Salinische Abführmittel

鹽類ニシテ多クハ腸内ノ水分ノ吸收ヲ妨ゲ以テ下痢ヲ起サシムルモノヲ云フ

△ 作用 次ノ作用ニヨリテ下痢ヲ起ス

1 腸内水分ノ吸收ヲ妨グルコト 鹽類ニシテ水ニ可溶性ニシテ而カモ腸粘膜ヨリ吸收セラレ難キモノヲ内服スレバ糞便ヲ溶解セシムルニ必要ナル水分ヲ抑留シ、且小腸内ニ於テ腸液トシテ分泌セラルル水分ヲモ合セテ糞便ノ周圍ニ抑留抱合ス、故ニ軟便若クハ水様便トナリテ容易ニ腸ノ下部ニ移行シ、下痢トシテ排泄セラル

2 蠕動亢進 鹽類ハ凡テ局處刺激性ヲ有ス、殊ニ滲透性ニ比例ス、食鹽ノ如キモノハ鹽類刺激性強シ、之ニ反シテ鹽類下劑ハ不吸收性ノモノナレバ殆ド刺激性ヲ有セザルモノト云フベシ、然レドモ此弱キ刺激作用ニテモ腸ハ過敏ナル臟器ナルヲ以テ其刺激ニ應ジテ蠕動ヲ亢進シ從テ瀉下作用ノ補助ヲナス

#### △ 醫治應用

- 1 腸内容ヲ速ニ排除スル爲メニ用フ 即腸内ニ異常發酵若クハ腐敗ヲ起シ、下痢其他ノ不快ナル症狀ヲ現ハシタル場合、若クハ毒物ヲ嚙下シテ其未ダ吸收セラレザル時等ノ如シ
- 2 脱水ノ目的ニ用フ 鹽類下劑ノ濃厚溶液ハ体内ノ水分ヲ減却ス、故ニ水腫アルモノニ用フ、例ヘバ大量一〇—二五ノ芒硝ヲ多量ノ水ニ溶解シテ内服セシムレバ濃厚鹽ノ刺激ニヨリテ腸分泌ヲ増進シ、鹽ハ之ニ由テ稀釋サレ下痢ス、故ニ組織ハ著シク水分ヲ失ヒ之ガ爲メニ水腫減退ス

△ 種類 芒硝(硫酸ソーダ)、人工「カルルス」泉鹽、硫酸マグネシア等ヲ主トナス

① 芒硝(普) Sodium Sulphate (硫酸ソーダ)  $\text{Na}_2\text{SO}_4 + 10\text{H}_2\text{O}$

性状 無色ノ結晶ニシテ微ニ苦味ヲ帶ブル清涼ノ鹹味ヲ有ス、乾燥氣中ニ於テ風化シ、冷水三分、三三度ノ水〇・三分、又熱湯〇・四分ニ溶解シ中性ノ反應ヲ徴シ、「アルコール」ニ溶解セズ、熱スレバ容易ニ熔融ス

醫治應用

- 1 下劑トシテ總テノ便秘ニ用フ
- 2 鉛中毒ニ内用スレバ不溶性ノ硫酸鉛ヲ形成シ、鉛毒作用ヲ防遏ス
- 3 石炭酸中毒ニ用フレバ硫酸ト石炭酸ト抱合シテ「フェノールズルホン酸」ヲ形成シ、無害ノ物質ニ變化シテ解毒ノ效ヲ奏ス

用量 一五・〇—三〇・〇

② 人工「カルルス」泉鹽(普) Sol Carolin. n. Pectinum 乾燥芒硝二分、硫酸カリ一分、食鹽九分、重炭酸ソーダ「一八分ヲ取りテ製ス

性状 白色ノ乾燥粉末ニシテ水ニ溶解シ酸類ヲ加フレバ劇シク泡沸ス  
作用

- a 炭酸鹽ヲ含有スルガ故ニ持長スルモ「アルカリ」缺乏ヲ來スコトナシ

- b 食鹽ヲ含有スルガ故ニ吸收後鹽類作用ニヨリ新陳代謝ヲ旺盛ナラシム
- c 兼ネテ利尿作用ヲ有ス

醫治應用

- a 瀉下劑トシテ緩下作用ヲ望ム場合ニ用フ
- b 酸中和劑トシテ胃潰瘍、酸過多症等ニ用フ
- c 變質劑トシテ尿酸性關節炎、糖尿病、肝臟疾患等ニ用フ、人工的ノモノハ天然礦泉ニ比シ變質作用弱シト云フ、空腹時ニ五・〇—一五・〇ヲ水ニ溶解シテ内服セシム

用量 五・〇—一五・〇

③ 硫酸マグネシア(普) Magnesium Sulphate (瀉利鹽)  $\text{MgSO}_4 + 7\text{H}_2\text{O}$

性状 無色ノ稜柱狀小結晶ニシテ氣中ニ於テ殆ド變化セズ、味ハ清冷苦鹹ナリ、等分ノ水並ニ〇・三分ノ熱湯ニ溶解シ中性ノ反應ヲ徴シ、「アルコール」ニ溶解セズ

醫治應用 緩下劑トス

用量 一五・〇—三〇・〇

## 二 植物性下劑

## 植物性下劑

Vegetable Cathartics  
Vegetabilische Abführmittel

植物製劑ニシテ主トシテ腸管ヲ刺戟シテ腸ノ蠕動機ヲ亢進シ下痢ヲ起サシムルモノヲ云フ、「ヒマシ油、巴豆油、「ヤ

ラッハ」、大黃、「ロカイ」等之レニ屬ス

△ 通性 本劑ハ一般ニ左ノ如キ作用ヲ有ス

(1) 腸蠕動亢進 植物性下劑ノ下痢ヲ起ス原因ハ主トシテ腸ノ運動ヲ高メ腸内容ヲ體外ニ迅速ニ排泄スルニアリ、之レガ爲メニ腸内容ナル水分吸収ノ暇ナカラシメ、軟便又ハ水様便ヲ排泄ス、從テ蠕動亢進餘リニ強烈ナル時ハ副作用トシテ腹鳴、疝痛、時トシテ裏急後重ヲ起ス、此事ハ動物試驗ニヨリテ明カニ認ムルコトヲ得、即水ヲ滿シタル「ゴム」球ニ長キ「ゴム」管ヲ付シ、之ヲ嚙下セシメ後植物性下劑ヲ與フル時ハ腸蠕動ヲ亢進シ「ゴム」球漸次ニ下降スルヲ見ル

(2) 局處刺戟作用 腸ノ蠕動運動ノ亢進スルハ局處刺戟作用ニヨル、即腸粘膜ヲ刺戟シテ腸壁粘膜ニ分佈スル知覺神經ノ末梢、又ハ腸運動神經節ヲ興奮セシムルニヨリ蠕動機亢進スルモノトス故ニ植物性下劑ノ作用ハ全ク局處作用ニシテ吸收作用ニアラズ、内服シテ其成分ガ腸壁ニ觸レテ刺戟性ヲ表ハスモノナリ、植物性下劑ノ或モノ即「ロカイ」ノ成分「アロイン」ノ如キハ血管内注入、或ハ皮下注射ニ由リテモ下痢ス、故ニ吸收作用ノ如ク見ユレドモ此法ハ分量ヲ多ク要シ、下痢ノ起ルニ多クノ時間ヲ要ス、之レ一旦吸收セラレ再ビ腸ニ排泄シ來リテ下痢ヲ起スニ他ナラザルナリ

(3) 本劑ノ刺戟作用ガ胃ニ於テ現ハルルコトナク腸壁ニノミ現ハルル理由左ノ如シ

即刺戟作用ニヨルトセバ口腔食道胃ヲモ刺戟シテ何等カノ障害ヲ起スベキ筈ナルニ此事ナキハ腸ニ到リテ始メテ刺戟作用ヲ起スニヨルモノナリ、其理左ノ如シ

a 「ヒマシ油、巴豆油」ノ如キ油性下劑ハ胃ヲ通過スル迄ハ中性ノ油類トシテ通過ス、故ニ胃ヲ害セズ、然ルニ腸ニ到ル時ハ「アルカリ」性ノ腸液殊ニ胆汁ノ爲メニ分解セラレテ、「ヒマシ油」ハ「リチノル酸」ヲ遊離シ、巴豆油ハ「クロトノル酸」ヲ遊離シ、依テ以テ始メテ腸ヲ刺戟ス

b 「ヤラツバ」ノ成分タル「ヤラビン」ハ刺戟性ノ樹脂酸ナレドモ水ニ不溶性ナルヲ以テ胃ヲ通過スル迄ハ刺戟作用起ラズ、腸ニ到リ胆汁ニ逢ヒテ溶解セラレテ初メテ刺戟性ヲ現ハス

「ロカイ」中ノ「アロイン」モ又胆汁ニ逢ヒテ始メテ刺戟性ヲ現ハス

c 旃那及大黃中ノ「カタルチン酸」並ニ「クリソファン酸」ハ其儘ニテ刺戟性ヲ有スレドモ、之等ノモノヲ生藥即葉ノ儘又ハ根ノ儘用フル時ハ植物性膠質ニ依テ包圍セララルガ故ニ腸ニ至リテ始メテ刺戟性ヲ現ハス

(4) 植物性下劑ノ種類ニヨル腸運動ノ變化 植物性下劑ノ種類ニヨリ腸運動ノ變化ニ差アルハ「レントゲン」線ノ透射法ニヨリテ明カトナレリ、即左ノ如シ

a 小腸ノ上部ヨリ運動ヲ亢進セシムルモノハ「ヒマシ油、巴豆油」等ノ脂肪油ニシテ小腸ノ上部

ニ於テ胆汁ノ作用ニヨリ鹼化セラレテ有效成分ヲ遊離シ刺戟性トナルヲ以テナリ、「ヤラッパ」、「コロシント」、「ポドフィルム」、藤黄等モ亦之ニ屬ス

b 大腸殊ニ直腸ニ到リテ排便反射機ヲ亢進スルモノハ「アントラツェン」ノ誘導體之ニ屬ス、即  
 旃那、大黃ノ如キ之レナリ

#### △ 醫治應用

1 習慣性便秘ニ用フ 即神經衰弱、腦疾患、運動不足、常ニ座業ノミヲ營ムモノニ適ス、而シテ此等ノ便秘ハ多クハ大腸ノ蠕動緩慢ニ基クモノナルガ故ニ特ニ大腸ニ作用スルモノヲ用フベシ、又一度用ヒタルノミニテハ不可ナリ、持續シテ用ヒザルベカラズ、小腸ヲ刺戟スルモノヲ用フル時ハ營養分ノ吸收ヲ妨ゲ營養障害ヲ起ス、故ニ大腸ニ作用スルモノ旃那、大黃等ヲ可トス

2 腸内容排除ノ目的ニ用フ 一時性便秘、宿便、毒物ヲ嚥下シタル場合、腐敗又ハ異常醱酵ニ因スル下痢アル時等ニ用フ、此場合ニハ小腸ノ上部ヨリ作用スルモノヲ可トス、如此有害物アル時ハ加答兒ヲ起シ居ルモノナリ、故ニ局處刺戟性少キモノヲ選ブベシ、「ヒマシ油」ノ如キモノ之レニ適ス

3 誘導ノ目的ニ用フ 腸充血ニヨリ他部ノ炎症ヲ誘導ス、即腦、眼、耳、口腔等ニ炎症アルモノニ下劑ヲ與ヘテ腸ニ充血ヲ起シ、血液ヲ腹腔ニ誘導シ患部ノ血量ヲ減少シテ輕快セシム

4 水腫及病的肥胖等ニ用フ 即水分ノ吸收ヲ妨ゲ間接ニ身體ノ水分ヲ失ハシメ之ニヨリテ水腫ヲ吸收セシム、又營養品並ニ水分ノ吸收ヲ妨ゲ身體脂肪ノ燃燒ヲ盛ナラシメテ肥胖ヲ治ス

5 催經ノ目的ニ用フ 植物性下劑ハ腸充血ノミナラズ、其附近即骨盤腔ノ充血ヲモ起サシム、故ニ月經不調ノ場合ニ用ユレバ催經ノ效アリ

#### △ 禁忌

1 腸附近ノ炎症ニハ用フベカラズ、蠕動ヲ亢進シテ炎症ヲ増悪スレバナリ

2 月經、妊娠、骨盤腔、臟器ノ炎症等アル場合ニハ用フベカラズ 下腹部ニ充血ヲ來シ、月經過多症、流産、子宮内膜炎等ノ増悪ヲ來タセバナリ

3 高老者衰弱者貧血者等ニ用フベカラズ、腹腔内血液増加ノ爲メ腦貧血ヲ起シ虚脱ヲ來ス恐レアレバナリ

△ 種類 主トシテ小腸ニ作用スルモノ 「ヒマシ油、巴豆油

主トシテ大腸ニ作用スルモノ「ヤラッパ」、大黃、「ロカイ」等アリ

(一) ◎「ヒマシ油」(普) *Castor-Oil* (蓖麻子油、リチネ油) (*Ricinus communis*) ノ種被ヲ除キタル壓種子ヲ冷シテ得タル脂肪油ナリ

性狀 無色或ハ類黄色澄明濃稠ノ液ニシテ微ニ特異ノ臭氣ヲ有シ味ハ初メ緩和ニシテ後稍苛辣ナ

リ、零度ニ於テ益濃稠トナリ或ハ同時ニ溷濁ヲ伴ヒ、強キ寒冷ニ遇ヘバ乳脂様ニ凝結ス、純「アル  
コール」並ニ氷醋酸ニハ隨意ノ比例ニ於テ溶解ス、比重〇・九五—〇・九七ナリ

作用。胃ニ於テハ殆ド變化セズ從ツテ之ヲ刺戟スルコトナシ

腸ニ到リテ腸液殊ニ胆汁ノ爲メニ分解セラレ「ヒマシ油酸」ヲ遊離シテ以テ作用ス、蓋シ「ヒマシ油  
酸」ハ極メテ微弱ナル刺戟作用ヲ有シ、蠕動ヲ亢進シ緩下セシム、尙分解セラレザル油分ハ腸粘膜ヲ  
滑カニシ器械的ニ糞便ノ下部ニ推移スルコトヲ容易ナラシム

醫治應用。刺戟性弱ク充血ヲ起サズ、故ニ腸ノ炎症ニモ用ヒラレ得テ殆ド禁忌症ナシ、瀉下劑ト  
シテ次ノ如キ場合ニ用フ

ル 齒痛劇甚ニシテ便秘アルモノ b 種々ノ中毒ノ場合 c 異常酸酵等ノ場合ニ腸内容

ヲ根本的ニ一掃スルニ用フ、何トナレバ其作用腸ノ上部ヨリ始マルヲ以テナリ

用量。一回一五・〇—二〇・〇

(二) 巴豆油(毒) *Croton Oil* *Oleum Crotonis* 巴豆油ハ本植物 (*Croton Tiglium*) ノ種被ヲ除キタル種子ヲ壓搾シテ得タ

ル脂肪油ナリ

性。狀。帶褐黄色稍々濃稠ノ液ニシテ特異不快ノ臭氣ヲ有シ、酸性ノ反應ヲ徴ス、比重〇・九四—〇・  
九六ナリ

作用。有效成分ハ巴豆油酸ト稱スル猛烈ナル刺戟性ヲ有スル脂肪酸ナリ、其大部分ハ「グリセリ  
ン」ト結合シテ中性脂肪油ヲナスモ、一部分ハ遊離シテ存在スルガ故ニ之ヲ皮膚ニ塗擦スレバ發赤  
浮腫水疱次デ膿疱ヲ發スルニ至ル

皮下ニ注射スレバ蜂窩織炎ヲ起シテ化膿ス

内服スレバ極メテ少量ト雖、口腔咽頭ニ灼熱ノ感ヲ起サシム、胃ニ至レバ嘔氣ヲ催シ、腸ニ至レ  
バ中性油ハ鹼化セラレテ其刺戟性ヲ増加シ、三〇分—二—三時間ニシテ始メハ普通便、次デ數回ノ  
水様便ヲ排泄ス

醫治應用。峻下劑トシテ稀ニ他藥ノ奏效セザル極メテ頑固ナル便秘ニ使用セラレ

用量。半—一滴ヲ「ヒマシ油」又ハ「オレフ油」ニ混ジテ内服セシム

極量。一回：〇・〇五 一日：〇・一五

(三) ①「ヤラッパ」根 *Jalapa Root* *Yucca Jalapa* *Ipomoea Purga* ノ球狀ニ肥大セル副根ヲ採集シ枝根及根尖ヲ除去シ

乾燥セルモノナリ、味淡白ニシテ苛辣ナリ、約九%ノ「ヤラッパ」脂ヲ含有ス

「ヤラッパ」脂ノ一部分ハ「コンゾールグリン」ト稱スル糖原質ノ無水酸ナリ、「コンゾールグリン」ハ  
強キ局處刺戟作用ヲ有スレドモ、水ニ不溶解性ナルヲ以テ食道及胃ヲ通過スル間ハ刺戟性ナシ、小  
腸ニ至リテ胆汁ニ逢ヒ始メテ分解シ刺戟作用ヲ現ハシ腸蠕動ヲ高メ下痢ヲ來ス、故ニ加答兒性黃疸



ノ如キ膽汁缺乏ノ場合ニハ效ナシ、又鞣酸ヲ含マザルヲ以テ永ク用フルモ便秘ヲ來スコトナシ

醫治應用 瀉下劑トシテ使用セラル

常習便秘ニ對シテハ少量(〇・五)ヲ用ヒ、頑固ナル蓄積便ニハ大量(一・〇—二・〇)ヲ用フ

(四) ◎大黃(普) *Rhubarb* *Rheum palmatum var. tanguticum* ノ根莖ヲ採集シ殆ド皮部ヲ去リ往々縦割シ乾燥セルモノナリ

性狀 特異ノ香氣ヲ有シ之ヲ嚼メバ砂鳴ヲ發シ弱苦味ヲ有ス  
作用

a 緩下作用 〇・五—一・〇ヲ用フレバ緩下作用アリ

b 健胃作用 〇・〇五—一・〇ニヲ用ユ、苦味質ヲ含有スルヲ以テナリ

c 止瀉作用 大黃鞣酸ヲ含有スルニヨル

d 本品ノ成分ニ「クリソファン酸アルヲ以テ尿ハ黃疸尿ノ如ク黃色トナル、之ニ「アルカリ」ヲ加フレバ赤色トナル

醫治應用 緩下劑トシテ次ノ如キ場合ニ用フ

小兒又ハ貧血衰弱セルモノ、重症疾患ノ恢復期ニ於ケル便秘、常習便秘

(五) 「ロカイ」(蘆薈) (普) *Aloes* *Africana* 産スル *Aloe ferrox* 其他同屬諸種植物ノ葉ヨリ採集セル

浸液ヲ煎稠シテ得タルモノナリ

暗褐色ノ塊ヲナシ破碎シ易ク、破片ハ透明ニシテ貝殼狀ヲナシ銳稜ヲ現ハシ硝子様ノ光澤ヲ帶ビ、類赤色乃至淡褐色ヲ有シ鏡檢上結晶性ヲ呈セズ、特異ノ臭氣ヲ有シ味苦シ

成分ハ「アロイン」、「ロカイ・エモヂン」、「アントラキノン」糖原質ヨリナル

作用

1 瀉下作用アリ、然レドモ他ノ下劑ト異リ皮下注射ニ由テモ此作用ヲ起スベシ、蓋シ腸運動神經節ヲ刺戟スルニ由ル、但膽汁ノ存在ヲ要スルガ故ニ加答兒性黃疸アルモノニハ下痢起ラズ

2 骨盤腔ニ充血ヲ起シ易シ、故ニ生殖器疾患、痔疾、月經時、妊娠中ニハ之ヲ使用スベカラズ

3 本劑ハ主トシテ腸ノ下部ニノミ作用スルモノナリ

醫治應用

a 瀉下劑トシテ常習性便秘ニ用フ

b 健胃劑トス、苦味質ヲ有シ苦味ヲ有スルヲ以テナリ

c 催經劑トシテ用ユルコト稀レニアリ

用量 〇・一—〇・四

五改訂 齒科藥物學 畢

齒科藥物學索引 (A B C びき)

A

アダリン	三八四頁	アミノホルム	七三	アリストール	八八
● アドレナリン	二二四	アミノピリン	三五八	アリストール油	九〇
アドレニン	二二七	アミロホルム	七四	アルバルギン	五八
アドリン	七四	アナルゲシン	二五七	アルバルゴール	五九
● 亜鉛鹽	二〇三	● アンチホルミン	一六二	アルゴニン	五八
● 亜鉛華	二〇六	● アンチピリン	三五五	アルケヴィー氏合劑	一一〇
● 亜鉛華軟膏	二〇七	● アンチピリン類似藥	二五七	アルコール	三九三、三九八
アフエニール	二二二	アネソン	二五三	アルマタイン	一四
阿片アルカロイド鹽酸鹽	三三七	アネスチール	二五三	アルコール劑	三八四
阿片	三三四	アステジン	二六一	アルサミノール	二九一
● 亞砒酸	一七九	アネストール	二五七	アルセミン	二九一
アイロール	一八九	アニダリン	八八	アルテノール	二二八
アコイン	二五一	● アニリン色素劑	一三二	アルゼノベンゾール	二九一
アコニチン	三七〇	アンチフェブリン	三六〇	アルゼノヒルゴール	二九〇
アクトール	六一	安息香チンキ	一四一	● 亞酸化窒素	二三二
アリピン	二五二	安息香酸	一四〇	アセチルフェネチヂン	三六一
アルミニウム鹽	二一五	安息香酸ソーダ	一四一	アセチルサリチル酸	三六七
アルムノール	二一八	アロナール	三六〇	● 亞硝酸アミル	三九九
アミン安息香酸エステル	二五七	アラビアゴム	三〇五	● 亞硝酸エチル	四〇〇
		アラビアゴム漿	三〇五	● アスピリン	二六七
		アリオナール	三六〇	阿仙藥	一九五
				アステロール	五五

アウタン 七一  
 アツエトアニリド 三六〇  
 アツエトククロホルム 二五三  
 アツロール 二九〇

**B**

バツクレール氏モディファイドフェ  
 ノール 一四八  
 バツクレール氏モディファイドオイ  
 カリブトール 一四八  
 バツクレール氏齒髓失活劑 一八五  
 バツクレール氏象牙質鈍麻糊劑 七一  
 バンカイン 二四六  
 蕃 椒 二七五  
 蕃 椒 二七六  
 蕃椒チンキ 二七五  
 バルビタール 三五五  
 バルビツール酸化合物 三八四  
 バウムガルトネル氏合劑 一六九  
 ベック氏蒼鉛糊劑 二一四  
 ベネツケン氏齒髓乾屍劑 六七  
 ベラモン 三五九  
 ベルガモツト油 三一七  
 ベルツ水 一六一

ベタナフトール 一二五  
 ビルロート氏A.C.E.合劑 三二六  
 ビロリナム 七八  
 防疫用石炭酸 一〇八  
 防疫用石炭酸水 一〇八  
 防腐劑 三〇  
 防腐劑ノ種類 三二  
 防腐用バイロゾン 四〇  
 防腐溶液 七七  
 芒 硝 四一二  
 ボログリセロール 七八  
 ボロホルム 七四  
 葡萄酒 三九八  
 葡萄酒カルシウム 二二二  
 葡萄酒注射液 四〇七  
 ブラツク氏一、二、三合劑 一〇九  
 プレツシグ氏合劑 一一三  
 プロムアンモン 三四九  
 プロムエチル 三三〇  
 プロムエーテル 三三〇  
 プロムヂエチルアセチル尿素 三八四  
 プロムカリ 三四九  
 プロムナトリウム 三四九

プロムラール 三四九  
 プロムラール類 三八三  
 プロム水素酸スコボラミン 三四九、三八三  
 プロムワレリル尿素 三四九、三八三  
 プロム劑 三四五  
 プロバリン 三四九、三八三  
 ブーロー氏液 二一八  
 病變療法 八

**C**

チクロフォルム 二五八  
 蓄積作用 二〇  
 チモカンフェーン 一二三、四〇五  
 チモール 一二〇  
 チモールアルコール 一二四  
 チモールグリセリン 一二四  
 チモールカンフル 一〇九  
 チモール醋酸水銀 二九一  
 チモール製劑 一二四  
 沈降炭酸石灰 二九七  
 丁子油 一四四  
 丁香油 一四四

直接作用 五  
 鎮靜劑 三四四  
 鎮痛劑 三三四  
 治療的作用 六  
 中 毒 六  
 中 毒 量 一七  
 中毒作用 六  
 注射用ヨード製劑 九四

**D**

ダイモール 一一七  
 大 黄 四二〇  
 打膿劑 二六三  
 彈力コロヂオン 三一二  
 脱脂綿 二二三  
 脱水ラノリン 三〇七  
 デルマトール 二一四  
 チアール 三八六  
 チアロムオキシメルクリフォル  
 オレスセ 五六  
 イン 三五八  
 チメチルアミノアンチピリン 四〇七  
 チガレン 四〇七  
 チギタリス類 四〇五

ゲギタリス葉 四〇七  
 チアルリールバルビツル酸 三八六  
 チエチルバルビツル酸 三八五  
 デイオキソチヂエン 三八  
 デイクロラミンT 九八  
 チスバルゲン 六〇  
 ドーベル氏液 九〇  
 銅 鹽 二〇一  
 ドーベン氏齒髓失活劑 一一四  
 ドルミン 三八四

**E**

エチル炭酸キニーネ 三六六  
 A.C.E.合劑 三二六  
 エーテル 三二六  
 榮 養 一三  
 液状石炭酸 一〇七  
 エレクトラルゴール 六〇  
 エムバリン 二九〇  
 鉛 鹽 一九六  
 鹽化アドレナリン溶液 二二七  
 鹽化亞鉛 一七六  
 鹽化第二鐵 二二二

鹽化第二鐵液 二二二  
 鹽化エビネフリン 二二八  
 鹽化カルシウム 二二九  
 鹽化カルシウム液 二二二  
 鹽化四メチルチオニン 一三二  
 鹽類作用 二七八  
 エーラミゾール 二九一  
 鹽類下劑 四一〇  
 鉛 酸 二〇一  
 鹽 酸 一六八  
 鹽化エビレナン液 二二八  
 鹽化キニーネ 三六三  
 鹽化モルヒネ 三三九  
 鹽化ネオテシン 二五二  
 鹽化プロカイン 二四六  
 鹽化ストヴァイン 二五一  
 鹽化トロパコカイン 二四九  
 鹽化ズブラレニン 二二八  
 エビレナン 二二八  
 鹽素酸カリ 四六  
 鉛 糖 一九九



重炭酸ソーダ

K

カーレルデーキン氏液 二九四  
 カバリー氏合剤 九七  
 カフィン 一一三  
 化學的配伍禁忌 三八九  
 過硼酸ソーダ 二六  
 灰白軟膏 四二  
 解離 二八七  
 過クロル鐵 四八  
 過クロル鐵液 二二二  
 カルチーネ 二二二  
 過マンガン酸カリ 二二二  
 カモボン 四四  
 灌腸 三三七  
 カンフル 一八  
 カンフルチンキ 四〇二  
 カンフルオレフ油 四〇四  
 カンフル精 四〇五  
 間接作用 四〇四  
 甘硝石精 四〇五  
 カンタリス 二七四

緩和劑

緩下劑

○カルモチン 三四九、三八三  
 カプシキンプラスチック 二七六  
 過酸化亜鉛 四三  
 過酸化マグネシア 四一  
 過酸化水素 三四  
 過酸化水素代用藥 四一  
 過酸化水素製劑 四一  
 過酸化水素水 三八  
 過酸化水素類 三八  
 苛性アルカリ類 一五八  
 假性一鹽化フェノール 一一二  
 苛性カリ 一五九  
 煅製マグネシア 三〇一  
 苛性ナトロン 一六一  
 苛性バイロゾン 四〇  
 滑石 三二四  
 カタロール 三八  
 カヤブテ油 一五二  
 過ヨード汞 二八八  
 可溶性局處麻醉劑 二二九  
 桂皮油 一四五  
 經驗的方法 九

ケリリン

血液凝固劑 二五九  
 血液凝固促進劑 二二一  
 血管收縮劑 二二九  
 稀鹽酸 二二四  
 揮發油類 一六九  
 稀次醋酸鉛液 一四二  
 拮抗作用 二〇一  
 キニーネ屬 二五  
 筋肉内注射 三六二  
 機能的變化 一九  
 禁忌現象 七  
 キセロホルム 二一五  
 器質的變化 二一  
 吸入 七  
 吸入麻醉劑 三二八  
 急性コカイン中毒 二四一  
 吸收作用 五  
 稀ヨードチンキ 二六九  
 稀ヨード精 二六九  
 クエン酸カフェインアンチピリン 二六九  
 コアグレン 二三四

コドレニン 二二七  
 コーレル氏腐敗根管治療劑 一二四  
 琥珀酸水銀 二八九  
 枯瘻 二一七  
 個人的關係 一一  
 コカイン注射液 二四四  
 コカイン代用藥 二四六  
 コカイノール 二五七  
 コムブラール 三六〇  
 興奮劑 三八八  
 コニアク 三九八  
 コラルゴール 五九  
 コロヂオン 三一二  
 コロイド銀 五九  
 根治療法 八  
 皓瘻 二〇四  
 口腔收斂劑 二〇五  
 口唇軟膏 七八  
 コリール 二六一  
 コスモリン 三〇八  
 クエン酸銀 六一  
 クエン酸カフェイン、アンチピリン 三五八

クラメリア

クラウゼン 一九五  
 クレオリン 二二六  
 ●クレオソート 一一〇  
 ●クレゾール 一一五  
 ●クレゾールホルモチモール 七四  
 ●クレゾール石鹼液 一一九  
 ●クロラヂン 九八  
 ●クロラミンT 九六  
 ●クロラールホルムアミード 三七九  
 ●クロラール類 三七六  
 ●クロレトール 二五二  
 ●クロロホルム 三二〇  
 ●クロロホルム精 三二六  
 ●クロロホルムノ撰擇 三二四  
 ●クロロホルム死 三二二  
 ●クロロパーチャ 三一三  
 ●クロロブタノール 三一三  
 ●クロルエチル 二五三  
 ●クロル化合物 二五九  
 ●クロルコセイン 九六  
 ●クロルメチール 九六  
 ●クロルナトリウム 二八〇

キヤシア油

極量 一四五  
 局處麻醉劑 一六  
 局處作用 二二七  
 矯正藥 四  
 強心劑 七九、三一五  
 膠樣銀製劑 四〇一  
 膠樣水銀 五九  
 ●ラバルキユー氏液 二八七  
 ●ラノリン 九六  
 ●リアシツツ氏齒髓失活劑 三〇七  
 ●リステリン 一八五  
 ●リゾホルム 一四一  
 ●ロック氏液 七一  
 ●ルゴール液 二八二  
 ●ルミナール 二六九  
 ●マデイラ 三八六  
 ●マキエクロクローム 三九八  
 ●マグネシア 三〇一



催眠劑	三七一	サロールカンフル	一四〇	製劑ノ精粗	一五
殺菌劑	三〇	サロールパラフィン	一三九	石灰水	二九八
醋酸	一七一	サルヴァアルサン	二九一	厥冷局處麻酔劑	二五八
醋酸アルミニウム液	二一八	佐	二九	赤色ヨード汞	二八八
醋酸鉛	一九九	サツカリン	三一五	石炭酸	一〇三、二六二
サンダラックヴァニシユ	三一三	サヨヂン	一四七	石炭酸樹脂	三一二
酸化亞鉛	二〇六	作用ノ部位	二七一	石炭酸化合物	一一一
酸化劑	三二	作用ノ反應	五	石炭酸カンフル	一一一
三酸化ホルモール	六九	作用ノ方法	四	石炭酸ソーダ	一一一
酸性芳香チンキ	一六七	作用ノ效果	六	石炭酸水	一〇七
サボデルミン	五六	性	一	選擇作用	三
サリチル酸	一三五	セダモン	三五九	セリ	三九八
サリチル酸アンチピリン	三五七	制腐劑	三〇	シエララックヴァニシユ	三一三
サリチル酸フェニル	一三七	制酵劑	三〇	瀉下劑	四一〇
サリチル酸メチル	一五二	生理的食鹽水	二八一	薔薇油	三一七
サリチル酸製劑	一三七	制酸劑	二九四	消毒劑	三〇
サリチル酸ソーダ	三六九	精製グツタベルカ	三一	處方箋	二八
サリチル酸水銀	二八八	精製白堊	二九八	笑氣	二二二
サリピリン	三五七	精製バラゴム	三一	昇汞	四九
サリチル酸屬	三六七	精製樟腦	四〇二	昇汞代用藥	五五
サロール	一三七	青色光線	二六二	食鹽	二八〇
		生體組織ノ變化	六	シヨイエル根管充填用糊劑	六七

S

小兒藥用量	一二	相互作用	二四	峻下劑	四一〇
硝酸	一六九	相助作用	二五	體格	一三
硝酸銀	二〇九	ソムノホルム	二六一	待期療法	八
硝酸銀加硝石	二一一	若鉛鹽	二二	體質	一三
硝酸ストリキニーネ	三九一	ソムナール	三四九、三八三	對症療法	八
習慣作用	二一	粗製クレゾール	一一七	タンナルピン	一九三
シユライヒ氏浸瀉麻酔液	二四五	粗製製劑	二三五	タンニングリセリン	一九三、三一〇
主藥	二九	リゾヨドール	九一	タンニン酸	一九一
脂肪類	三〇六	リゾヨドール亞鉛	九二	タンニン酸水銀	二九〇
齒科藥物學	一	リゾヨドールカリウム	九一	タンニン酸水銀	一九四
齒科藥治學	一	リゾヨドールナトリウム	九一	タンノホルム	一九四
齒科藥理學	一	リゾヨドール水銀	九二	蛋白化銀製劑	五七
止血コロヂオン	二二三	水銀鹽	二八五	膽礬	二〇二
止血綿	二二三	水銀軟膏	二八七	炭酸マグネシア	三〇〇
止血劑	二七四	スペチヨード	九四	タルボット氏ヨードグリセロール	三〇〇
シナシン齒科用紙膏	一四	スピカイソ	二四六	タルク	二〇八
眞性免毒性	七三	スルホナール	三八〇	適用ノ部位	一七
シストゲーン	一八六	スルホナール類	三〇	特異質	一三
收斂劑	三四七	スルフオ石炭酸	三一三	特質	一三
臭素病	八七	ステレソール	四一	豚脂	三〇七
四ヨード化ビルロール	一六	ステイプトガン	六五	投藥ノ反覆	二〇
施用ノ方法	一八四	ストマン	四一〇、四一四		
齒髓失活劑		植物性下劑			

T

トラガント 三〇五  
 トラガント漿 三〇五  
 トラウヌチン 三一  
 トリプロム石炭酸蒼鉛 二一五  
 トリクレゾール 一一八  
 トリクロールフエノール 一一四  
 トリクロール醋酸 一七二  
 トリクロールヨード 九二  
 トリオキシメチレン 六九  
 トリオナル 三八二  
 トリパラフィン 一三三  
 塗 擦 一九  
 ツトカイン 二五三  
 「チモール」ハCノ項ヲ見ヨ

U

維也納腐蝕バスタ 一六〇  
 ウレタン 三八七  
 ウロトロピン 七三  
 ヴエラトリン 三七〇  
 ヴイオホルム 九〇

V

ウエロホルム 七一  
 ヴエロナール 三八五  
 焼明礬 二一七  
 藥物ノ末路 二一  
 藥物ノ應用 七  
 藥物ノ作用 二  
 藥物ノ理學的性質 一五  
 藥物ノ性質 一五  
 藥物ノ撰擇 九  
 藥物ノ相互作用 二四  
 藥物作用ノ種類 一〇  
 藥物作用ノ種類 二  
 藥物的作用ニヨリ生體組織ニ起ル變化 六  
 藥理的配伍禁忌 二七  
 藥用量 一六  
 ヤラツパ根 四一〇  
 ヤトレン 九五  
 ヨチオン 二七〇  
 ヨヂピン 二七一

Y

ヨドール 八七  
 ヨード 二六六  
 ヨード亜鉛 二〇七  
 ヨードチンキ 二六七  
 ヨードフォルタン 二七一  
 ヨードグリセロール 二〇八、  
 ヨードホルム 八三  
 ヨードホルム代用藥 八七  
 ヨードホルムガーゼ 八六  
 ヨードホルム乳酸泥 八六  
 ヨードホルム乳劑 八六  
 ヨードホルミン 九一  
 ヨードホルモゲン 九一  
 ヨード化ニイゾブチル、オルトク  
 レゾール 九〇  
 ヨードカリ 二八二  
 ヨードカルシウム尿素 二七一  
 ヨードクロル酸ヒノリン 九〇  
 ヨードイン錠 二六九  
 ヨードピリン 二七二  
 ヨード精 二六七  
 ヨードスタリン 二二七  
 用法 一九

用 量 一六  
 熔製硝酸銀 二一一  
 ヨーヂヴアル 二七二  
 ユーカリ油 一五〇  
 有機性銀鹽類 六〇  
 有機性銀化合物 五七  
 有機性ヨード製劑 二七〇

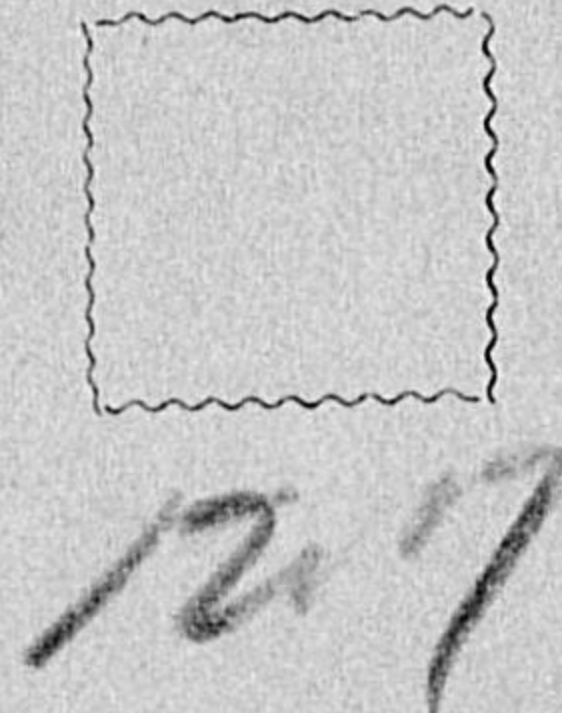
Z

滲透壓 二七七  
 ザロフエーン 三六九  
 ザロール 一三七  
 ゼラチン 二三三  
 續發作用 五

造鹽素化合物 八一  
 象牙質鈍麻糊劑 七一  
 ズブクチン 二五七  
 ズブラミン 五五



大正九年二月廿五日 第一版發行  
 大正十三年十二月十八日 第二版發行  
 昭和六年四月六日 第三版發行  
 昭和九年十二月十五日 第四版印刷  
 昭和九年十二月二十日 第五版發行



著者 兼行者

印刷者

印刷所

齒科藥物學

正價 金五圓

佐藤運雄

東京市本郷區湯島切通坂町五十一番地

加藤晴吉

東京市本郷區湯島切通坂町五十一番地

正文舎第一工場

發行所 東京齒科月報社

發賣元 株式會社 金原商店

本店 東京市本郷區湯島切通坂町二十一番地  
 電話小石川三八四〇・四三三二・振替東京三五三五  
 支店 大阪市西區江戶堀上通二丁目四十二番地  
 電話土佐堀二四二三番振替大阪六四六三番  
 支店 京都市上京區丸太町通丸太町橋西詰  
 電話上四一四番振替大阪二九六一九

7-3814

vs 2

~~58~~ 497  
~~212~~ SA 85

終